



岩月賢一名誉教授の思い出

2013年11月10日、日本歯科麻酔学会名誉会員の岩月賢一東北大学・獨協医科大学名誉教授が幽冥境を異にすることとなりました。毎年2回は、電話で種々お話を拝聴し得ただけに、誠に残念です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

2012年6月には久しぶりに相変わらぬ達筆でご近況と、11月13日には白寿を迎えられることを“水仙は亡き妻の花束ね差す”の句を添えられて、お便りをいただきました。

岩月名誉教授には東北大学ご定年退官後、17年間に亘って東北歯科大学（現奥羽大学）の客員教授として、登院前期の学生に患者の全身管理に関する講義をお願いしておりました。小生も学生と一緒に拝聴しましたが、講義は、ご自身の臨床経験を交えながら、学生が理解し易い内容でした。最終の授業では医の倫理について説かれ、論語の中から“後生畏ルベシ焉ンゾ来者ノ今ニ如カラザルヲ知ランヤ、四十五ニシテ聞コユルコト無クンバ、斯レ亦畏ルルニ足ラザルノミ”の孔子の言葉をもって、学生の前途に対する期待を込めて締め括られていました。終わると同時に、常に自然と万雷の拍手がおき、ノートにサインをお願いしていた女子学生もいた程です。

岩月名誉教授は、麻酔科学の専門書や医語語源に関する書籍のほかに、日本医事新報、麻酔と蘇生、ICUとCCU、ご趣味であった硬式テニスの部誌“球友”などから依頼されて、数多くのエッセイや随想、紀行、論説、講演などを執筆され、随筆集として纏めておられます。喜寿を記念して“落穂集”，傘寿のときは“余滴集”，米寿のときは“残照集”，そして満93歳のときに“帰根集”と題して上梓されています。時折書架から出して拝読していますが、その時ごとに学識と思考の深さ・広さに驚嘆するのみです。また一期一会を大切にされ、“帰根集”のなかに“人生とはさまざまな人々との出会いを通して自分自身を探し求めていく旅に他ならないであろう”と書かれています。

いまは、宇宙のロゴスの御傍で、奥様と静かに徒然草を読んでおられると思います。

合掌

（日本歯科麻酔学会名誉会員 高北義彦）

岩月賢一先生 ご略歴

1913年 11月	愛知県高浜市に生まれる	1977年 4月	東北大学定年退官，同大学名誉教授
1940年 3月	東京帝国大学医学部医学科卒業	1978年 9月	獨協医科大学教授（麻酔科）
1946年 12月	医学博士	1979年 4月	東北歯科大学（現奥羽大学）客員教授
1953年 3月	信州大学医学部助教授（外科）	1980年 2月	財団法人仙台市救急医療事業団理事長
1958年 10月	東北大学医学部教授（麻酔科）	1983年 4月	獨協医科大学越谷病院長
1960年 4月	第8回日本麻酔学会会長	1986年 3月	獨協医科大学退職，同大学名誉教授
1970年 1月	東北大学医学部附属病院長	4月	勲二等瑞宝章
1974年 2月	第1回日本集中治療医学会会長		
	その後，第2回，第3回会長を歴任		